

# チクングニヤ熱 Chikungunya Fever

平成27年1月29日  
在コロンビア日本国大使館  
参事官兼医務官 山下 功

## 歴史

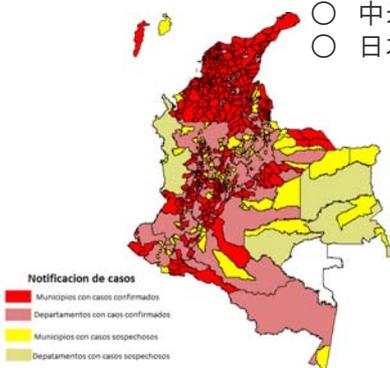
1953年タンザニアの発熱患者から初めてウイルスが分離された。  
(東アフリカのMokonde語で『腰をかがめる』という言葉に由来。ひどい関節痛でかがんで歩く様子を表したもの。)  
2013年12月アメリカ地域でも発生。(セント・マーチン島)  
2014年10月までにアメリカ地域で776,000人を越える症例が報告される。(カリブ海の国々での発生が最多)

**感染経路:** チクングニヤ・ウイルスに感染し蚊(ネッタイシマカやヒトスジシマカ)から。  
(コロンビア政府は標高2,200mより低地では感染の危険があると注意喚起している。)

**潜伏期間:** 通常3~7日(2~12日)



- コロンビアでは2015年第1週までに12,138例の報告あり。
- 中米では、エルサルバドル、ニカラグアが多い。
- 日本では、輸入例が39例のみ。



コロンビアの流行地域

## 症状

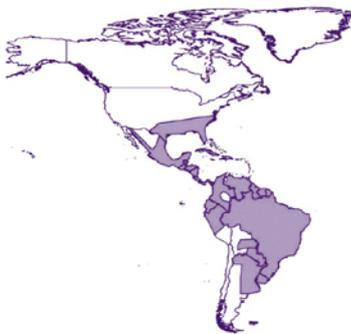
- 突然の発熱と関節痛。発疹(約80%)、頭痛、悪心、倦怠感、筋肉痛など。
- 多くは数日から2週間程度で回復。若くて元気なほど軽く済む。高齢者は数ヶ月単位で症状が続くことも。
- 致死率は0.1%程度。65歳以上の死亡率は45歳以下の50倍。
- 流行地域がデング熱と重なるため、誤診されることもある。

**治療:** 関節痛に対してアセトアミノフェン。それ以外の薬の使用は慎重に。  
**予防:** ワクチンは平成12年に作成されるも資金難で頓挫。  
蚊に刺されないことが重要。



ネッタイシマカ  
(Yellow Fever Mosquito)

Figure 4. Distribution of *Ae. aegypti* in the Americas.\*



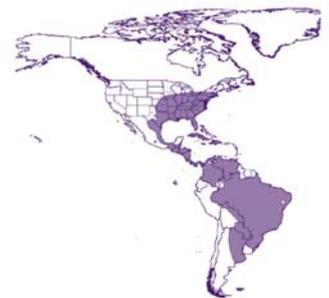
\* Adapted from Aris, 2002.\*\*

ヤブ蚊: チクングニヤ熱、デング熱、黄熱、ウエストナイル熱などを伝播。



ヒトスジシマカ  
(Asian Tiger Mosquito)

Figure 5. Approximate distribution of *Ae. albopictus* in the Americas.\*



\* Adapted from Benedict et al. 2007.\*\*

## 特徴

- 待ち伏せて、対象が近づくと吸血。

### ネッタイシマカ

- ヒトしか吸血しない。日本には居ない。
- 屋内・建物周辺で繁殖、潜伏。
- 日中、特に薄明、薄暮に吸血。

### ヒトスジシマカ

- 日本では青森くらいまで生息。
- 哺乳類だけでなく、鳥類、爬虫類も吸血。
- ブッシュ(いわゆるヤブ)近辺で繁殖、潜伏。
- 薄明、薄暮に吸血。
- 直射日光の当たる場所に来ることは稀。
- コンクリートジャングルでは生息できない。

# 防蚊対策

平成27年1月29日  
在コロンビア日本国大使館  
参事官兼医務官 山下 功



## ネッタインマカ対策

1. **発生源対策 (発生源をなくすこと)**  
100ml 程度の水たまりで孵化。花瓶、金魚鉢、等々、屋内で水を満たした状態で、しばらく放置される容器に発生する。
2. **吸血回避**  
蚊取り線香や忌避剤の塗布。  
長袖・長ズボンの上から吸血されることはまずない。

## ヒトスジシマカ対策 → 吸血回避

1. ヤブに近寄らないのが一番。
2. やむを得ずヤブの近くで活動するときは、蚊取り線香の携行や忌避剤の塗布、長袖・長ズボンの着用が効果的。



## 忌避剤

- DEET
- Picaridin (also known as KBR 3023, Bayrepel, and icaridin)
- Oil of lemon eucalyptus (OLE) or PMD
- IR3535 (Avon Skin So Soft Bug Guard Plus)

## 日本製防蚊対策製品

- スコーロン
- スプレー式蚊取り
- オリセット・ネット

